

3 モバイルデイケアの定期的・継続的実施に向けて



●モバイルデイケアの意義

モバイルデイケアは、各種の専門職が介護サービス事業所がない、または、通所が困難な地域や災害などの罹災地域の仮設住宅に出向き、良質なリハビリテーションを提供し、被災高齢者に寄り添うきめ細かな支援を行うことができます。専門職のチームで支援するモバイルデイケアの定期的・継続的な実施は大変有効です。

●実施の際のポイント

本事業の実施結果から、以下のようなポイントが検証されました。しかし、実施地域により状況は大きく異なるため、その状況に応じて柔軟に対応・改善することが必要です。

- 地域包括支援センターなどとの情報交換によるニーズの把握など、事業実施における協力関係を構築する。
- 実施スタッフは、リハビリテーション職、看護職、介護職または支援相談員を基本とする。必要に応じて、他専門職も参加。
- 専任スタッフが望ましい。
- 週1回の定期的実施が望ましい。実施時間は2時間程度内。
- 対象人数は、実施スタッフが参加者の状況を把握できる10～15人程度。
- 実施会場は、集会場や談話室、隣接する公共施設など、十分な広さを確保する。
- 給排水、トイレ、冷暖房などの設備が必須となり、バリアフリー化されていることが望ましい。
- 実施内容は、適宜医師による診察や健康チェックの上、リハビリテーションやアクティビティ等を実施する。その間も、健康チェックは実施する。
- 参加者の継続的な参加を促すためにも、飽きのこない実施内容とする。

【災害などの罹災地域での留意点】

- 被災状況を鑑み、被災時や故郷等を連想させることは避ける。
- 参加者同士の仮設住宅内の交流だけでなく、仮設住宅地域周辺の住民とのコミュニケーションを促すことが大切。また、地域資源の活用や事業の継続性・恒常性につながるよう、仮設住宅地域の他専門職や行政との連携が重要。



公益社団法人全国老人保健施設協会

東京都港区芝2-1-28 成旺ビル7階 (〒105-0014)

電話：03 (3455) 4165 FAX：03 (3455) 4172

平成24年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

平成24年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
モバイルデイケア(巡回型リハビリテーション)事業

モバイルデイケア (巡回型リハビリテーション) 実施に向けて



1 モバイルデイケア(巡回型リハビリテーション)とは



通常、介護老人保健施設では通所リハビリテーション(デイケア)を実施していますが、モバイルデイケアは、リハビリテーションが必要でありながら、施設への通所が困難な高齢者に対してスタッフ(医師、歯科医師、看護職、リハビリテーション職、介護職など)や機器を現地に移動して実施するものです。

これまで、全国老人保健施設協会(全老健)では、山間部や離島等で介護サービスの拠点がいない地域や自宅からサービス提供機関まで距離的・時間的にも通所が困難な地域等にこの事業を試行的に重ねてきました。

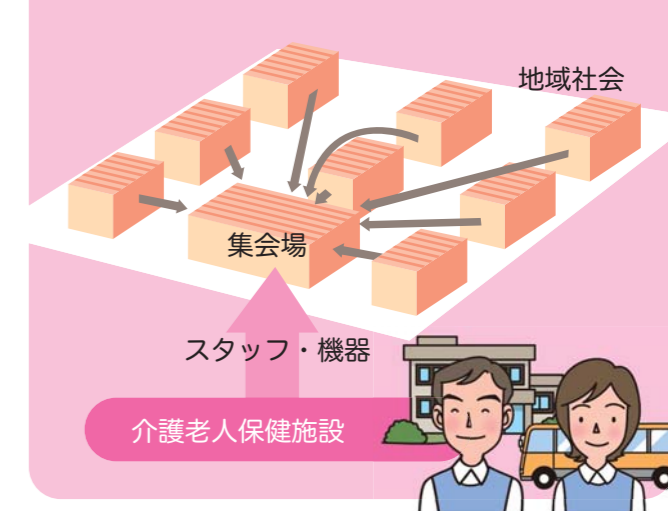
通所リハビリテーション

利用者が居宅から老人保健施設に移動して実施



モバイルデイケア

事業者が地域社会に出向いて実施



東日本大震災においては、被災地域(岩手県・宮城県・福島県)における被災要介護者の応急仮設住宅生活が長期化する恐れが懸念されます。

全老健では、介護老人保健施設が行えることを考えた末、これまでのノウハウを最大限に活用し、定期的・継続的に良質なリハビリテーションを提供することによって、被災された高齢者の方の生活機能の低下を予防し、ADL、QOLを高めることを目的に、応急仮設住宅におけるモバイルデイケアを実施しました。

【平成23・24年度に全老健で実施した事業の状況】

実施場所	岩手県陸前高田市		宮城県石巻市		福島県福島市	
	平成23年度	平成24年度	平成23年度	平成24年度	平成23年度	平成24年度
実施期間	平成23年9月～平成24年1月	平成24年10月～平成25年2月	平成23年10月～平成24年1月	平成24年10月～平成25年2月	平成23年10月～平成24年1月	平成24年10月～平成25年2月
参加人数	17名	19名	17名	14名	13名	12名
スタッフ構成	基本スタッフは、リハビリテーション職、看護職、介護職または支援相談員 リハビリテーションメニュー等によって、医師や歯科衛生士、管理栄養士等が同行					



2 モバイルデイケアの効果

自立支援、介護予防の促進、閉じこもり解消へ

仲間との交流、身体機能の向上、精神面の改善 など

モバイルデイケアに参加

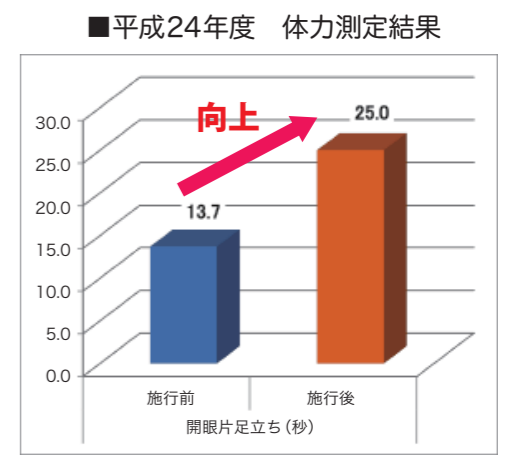
身体機能の低下や閉じこもりがちな高齢者

●心理社会的改善効果

参加者の心理面の改善や身体機能の向上。

●コミュニティの再構築の第一歩

住み慣れた地域を離れた避難生活の中などで孤立する高齢者が仲間と交流し、人と人がつながり、コミュニティを再構築するきっかけとなる場。



●参加者の声

部屋にこもりがちの私でした。参加させて頂くようになってからはお友達も出来ました。楽しかったです。又よろしく願い致します。

職員の皆様、いつも明るい笑顔でご指導頂き有難うございます。頭の下がる思いで一杯です。お蔭様で膝の痛み、体のふらつきも良くなりました。私も津波で帰る家も無く6度の避難で皆様と一緒に笑っての体操が何より心の明るさ楽しみでした。

モバイルデイケアは仮設の近くに来てもらえるので参加しやすい。一人ではなかなか続けられないのでみんなでやるから続けられます。

【モバイルデイケアの今後の活用】

●過疎地域等への波及

過疎地域に代表される、介護サービス事業所がない、または、通所が困難な地域に対して、効果を発揮する事業であるため、そのような地域への波及効果が期待される。

●地域の状況や対象者にあわせた柔軟な体制での実施

多職種でのチーム編成による対象者の状態に応じた幅広いサービスの提供、実施を通じた関係機関や団体等の連携体制の構築を促進。

